

あの日から変わってしまったこの空の下で、君を抱きしめる——。

生まれてくる命のために、私はどんな未来を描けるのだろう。

「あなたを全力で守るから。だからどうか、無事に生まれてきてください。」
 そう言って自分のおなかを優しく抱きしめる母。

映画『抱く{HUG}』（ハグ）は、新しい命と、強く美しい母の愛が生まれる瞬間を捉えた、感動のドキュメンタリーです。

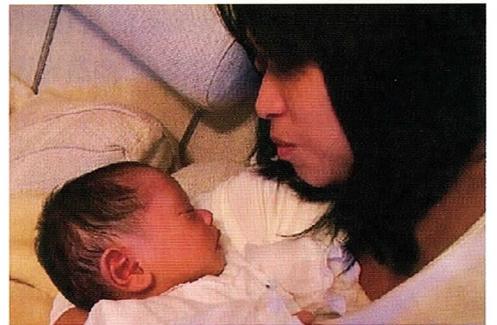
監督は、これまで一貫して環境問題や逆境に生きる人々に焦点を置いた作品を発表してきた海南友子。次なる取材地に福島を選び、3.11直後に原発4キロ地点にまで肉薄して取材をしていた海南監督は、その矢先に妊娠していることに気づきます。不妊治療の末、とうに諦めていた初めての妊娠でした。

水を飲み、大きく息を吸うたびに赤ちゃんへの影響が心配になる。福島で出会った母たちの苦しみ、そのまま自分のものとなりました。そして、生まれてはじめて自分にカメラを向ける決心をします。

40歳での初めての出産、そして放射能の不安との闘いの日々。壮絶なつわり、緊急搬送されるまでの激痛。これは年齢のせいなのか、それとも放射能の影響なのか。取材を続けるべき？それとも？

監督は、迷い、苦しみながら自身にカメラを向け続けます。何もかもが変わってしまったこの世界で、母となる意味を記録する為にー。

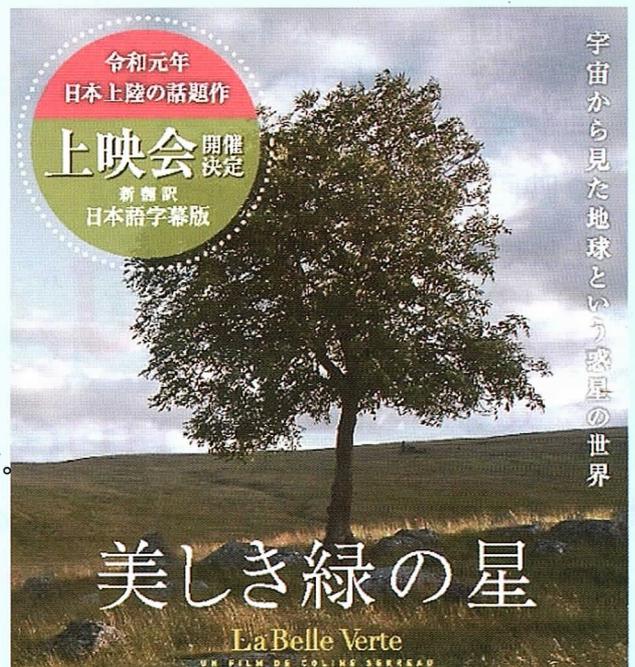
ここに、ひとりの母親による心揺さぶる魂の記録が誕生しました。



あなたが地球にやってきた目的を思い出す

貨幣経済や争いもなく、すべての生命と自然、大地が調和して暮らす惑星「美しき緑の星」。

この映画は、そんな理想郷から「地球人の目覚めのサポート係」として、地球に派遣された主人公のミラ（監督自ら主演）の目線を通して、現代人の意識の在り方と現代文明の問題点を世に問いかけた作品。見どころは、ミラが駆使する「接続解除」という超能力。権力者、医者、商店主、サラリーマン、音楽家など、ミラと出会った人々は次々に意識が覚醒し、本来の自分に戻っていきます。するといったい、どんな世界がくり広げられるのか……。



シリアスなテーマを、『赤ちゃんに乾杯！』など数々のヒット作で知られるコリーヌ・セロー監督が、コミカルかつスピリチュアルなテイストで描いたフランスの名画。

20年以上前に製作されたとは思えない先進的な鋭い視点が光り、いまこの時期に多くの人々の魂を目覚めさせる渾身のミッション作です。